平成３０年度 日本大学山形高等学校　自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び「『自主創造』の３つの構成要素及びその能力」を確実にするため，本校の教育方針「１．豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う。」「２．自ら真剣に学習し，知識を高め，深い教養を身につけるよう努める。」「３．心身を鍛錬し，いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う。」と教育実践の重点目標「１．学習指導の徹底」「２．生徒指導の徹底」「３．特別活動の振興」の位置付けを全教職員でさらに明確化・共有化し，「自ら学ぶ」，「自ら考える」，「自ら道をひらく」を念頭に生徒の育成に最善を尽くす。また，主体的･対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善，生きて働く知識･技能の習得など，新しい時代に求められる資質･能力を，育成知識の量を削減せず，質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を推進し，日本大学をはじめ，多くの大学への合格者数が大きく増加することを目指す。さらに，生徒による授業評価アンケート集計結果及び自由記述内容にある内容を精査し，「生徒と向き合う」意識の徹底と「生徒ファースト」が感じられる，安全安心な学校づくりを心掛ける。

〔本校の特長及び課題〕

「自ら学ぶ」，「自ら考える」，「自ら道をひらく」を育成しつつ，個々人の進路希望を実現させるべくコース別学習指導の体制の下，学力向上を目指している。

適切な生徒指導の根幹をなす基本的生活習慣の確立，能動的な学習習慣の確立に努めている。また，地方の私立高校として特別活動の振興に努め，学園全体として文武両道を校是とし，感動と一体感を涵養している。

課題は，さらなる特色教育の充実を図るとともに，少子化に伴う生徒募集のあり方，校舎の耐震化と財政基盤の適正化にある。

平成３０年度の取組結果

〔概況〕

平成 30 年度の取組目標に対する結果・進捗状況及び達成状況は，各校務分掌でおおむね結果が得られた状況であるが，あまり達成成果が得られなかった目標に対しては，継続事項として取り組んでいきたい。特に，教師の授業力向上のため，教員相互授業参観(他教科も可)を年数回実施することについては，昨年度よりも実施回数は増し相互研鑽の一助にできたが，さらに効果を上げたい。また，校内の環境整備面については，昨年より全般的に課題がこなせていない現状が続いており，今後も全教職員が協力して改善・向上に努める。また，全員が担当する中学校に何度も足を運び生徒募集に努めていく。今後とも全教職員が協力して継続的に課題改善に当たっていきたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」施行に向けての取組は，文部科学省と県の説明会資料による教員研修会を実施した。その後，各教科で新教育課程表の作成に取り組んだ。「高大接続改革」に向けての取組は，「学力の３要素」を踏まえた教育活動を通し，多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために，英語の４技能検定と「ｅポートフォリオ」の導入を進めた。	A
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	相互授業参観などを通して，授業力とクラスの教育環境の向上を図った。生徒による授業評価の結果は全項目で昨年を上回り一定の効果があったと考えているが，さらに教育力を高めていく取組と，授業の始業時間を守る取組が必要である。	B
基礎学力の向上	相互授業参観を通して，授業等の相互点検を図りながら教育力の向上を図った。また，多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために	B

	始業時間を守るように取り組んだ。中長期的目標と同一。	
ＩＣＴ教育の導入準備	１年生と２年生特進コースで「Classi」を導入し，主にアンケート機能やポートフォリオ作成のためのツールとして活用した。今後は，さらに機能の効果的な活用を図る必要がある。中長期的目標と同一。	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	・本校のいじめ防止対策基本方針（平成 30 年３月改定）や危機管理マニュアルに基づき，いじめの未然防止と早期発見に取り組むとともに，いじめの認知においても，初期対応の重要性を認識し，組織（チーム）としての対応に努めている。 ・保健室に来室した生徒が，いじめや人間関係のトラブルなどを訴えた場合には，早期にいじめ防止対策委員や学年主任，担任などと情報を共有し，共通理解の下で問題解決に当たっている。 ・生徒から，いじめや人間関係トラブルの悩みを聴取した場合，担任や特別支援員と情報共有や対応についてのカンファレンスを行った。中には全体像の確認の目的で担任と生徒の面談を実施し，早期に解決できたケースもあった。 ・生徒と担任との二者面談等を行い生徒理解に努めるとともに，状況に応じて保護者との連携を図りながらサポートに努めている。 ・６月と 11 月にいじめ発見調査アンケートを実施し，いじめの防止・早期の発見と対応に努めている。 ・各種研修会に参加し，指導力の向上に努めるとともに，「いじめの認知～先生方一人一人がもう一度確認して下さい～」（文部科学省発行）を活用して教職員全体でのいじめの認知や具体的対応等の理解の深化を図った。 ・生徒会によるいじめ防止のためのスローガンを作成し，生徒の主体的な意識づけを高めている。 ・ネット被害防止スクールガード事業としてのネットパトロールを通して，いじめの未然防止やＳＮＳトラブル防止の指導に取り組んでいる。	B
交通安全 非行の防止	・４月に生活指導講話「自転車交通安全教室」を実施（１学年）した。また，各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識づけの向上を図った。 ・登下校時の通学路巡回指導を実施している。 ・問題行動の未然防止のための指導や，心配される事柄に対する生徒への注意喚起等に関しては，担任によるクラスでの指導と全体での指導（全校集会や学年集会など）を適宜実施している。 ・普段からの指導とともに，警察署や外部の専門家による生活指導講話を実施するなど，事件や事故，トラブルの防止に取り組んだ。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ボランティア活動や交流活動への参加	校内でのボランティア活動の確立には至らなかったが，ＪＲＣ部の諸活動をはじめ，災害ボランティアに参加した部もあった。	B
学校行事の充実	現行の学校行事の改善に努めた。また，各大会の応援にも力を入れることができた。	B

部活動への加入率や継続率の向上	昨年度同様，新入生オリエンテーションでの部活動紹介に力を入れることができた。また，今年度より，部員数の推移が分かるよう 10 月にも調査を行うことができた。	B
部活動の管理体制の適切化	顧問がより指導に専念できる環境を作れるよう努めたが，大きな成果につながった訳ではない。	B
部活動や学校行事の活性化	教員がより指導に専念できる環境を作れるよう努めたが，大きな成果につながった訳ではない。	B
家庭や地域との連携	月ごとの活動予定表や遠征の案内等を家庭に配布することができた。また，例年通りラグビー部が小学生へのタグラグビー指導を行った。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	①夏期休暇中の全員参加の講習（１～２年，ただし３年は進学希望者全員） ②年末年始休暇中の全員参加の講習（１・２年） ③春期休暇中の全員参加の講習（２・３年） ④医学部附属看護専門学校説明会（２・３年の生徒対象：看護学校教員が説明） ⑤理工学部説明会（２・３年の生徒対象：理工学部教員が説明） ⑥芸術学部説明会（２・３年の生徒対象：芸術学部教員が説明） ⑦国際関係学部説明会（２・３年の生徒対象：国際関係学部教員が説明） ⑧生物資源科学部説明会（２・３年の生徒対象：生物資源科学部教員が説明） ⑨工学部オープンキャンパス無料バスツアー（１～３年の生徒・保護者対象）引率 ⑩日本大学各学部のオープンキャンパスへの参加を指導（全学年） ⑪１年次進路説明会（保護者対象）にて日本大学について説明（本校教員が説明） ⑫２年次進路説明会（生徒・保護者対象）にて日本大学向けの分科会を開催（本校教員が説明） ⑬３年次日本大学付属推薦説明会（生徒対象：本校教員が説明） ⑭３年次日本大学付属推薦説明会（保護者対象：本校教員が説明） ⑮生産工学部高大連携教育（３年） 上記の学部教員による説明会について，芸術学部・国際関係学部・生物資源科学部は前年度と比べ対象者を広げて実施した。 過去３年間の付属推薦の結果を踏まえ，日本大学の学部学科ごとに基礎学力選抜方式における目標点をまとめたプリントを作成し，教員・生徒・保護者に提示した。 日本大学の魅力を各種説明会や三者面談・二者面談で生徒・保護者にアピールすることにより，入学時より日本大学希望者が増えている。 スポーツ科学部への進学者が一昨年・昨年は１名ずつであったが，今年は５名と大幅に増加した。 一般入試Ｎ方式１期の受験が定着してきたことと成績上位者層が伸びていることにより，一般入試による日本大学への受験者数及び合格者数が年々増加している。	B
きめ細かい進路指導の実践	担任と進路指導部が連携を密にし，生徒の実態に即した進路指導を行った。クラス担任が詳しいことまで分からない分野については，進路指導部でバックアップするような体制が確立している。 付属推薦入試の最新情報を速やかに生徒や保護者に伝え，日本大学進学希望者の進路目標達成を援助した。進路指導部と担任が連携を密にして生徒の実態に即したき	A

	め細かい進路指導を行った。スタディサポート（ベネッセ）により生徒の現状分析から面談する優先順位が分かるので，それをもとに面談を行った。教員向けのスタディサポート分析活用会を実施し，家庭学習の充実に向けた指導のポイントなどを担任が研修を積み，実践している。 今年度から２年生の就職希望者の中で一般企業を考えている生徒に対して，夏休みにインターンシップに参加させ，職業観を深めさせた。	

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の様々な「不適応状態」や「困り感」の早期把握と，それに対する早期対処のシステム化	昨年度の反省を生かし，関係する学校スタッフとのケースカンファレンスをより積極的に行った。完全な「システム化」までは確立しきれていない部分もあるが，これまで以上に情報を共有し，対応についてのアセスメントが形になり，中には不適応状態を解決できたケースもあった。	B
校内環境整備に関する体制の再構築	割り当てられた清掃区域は，生徒がこれまでどおり毎日清掃活動を行い，学校行事前の特別清掃も，担当者のアナウンスでうまく実施することができたが，清掃が行き届かない所が残っているのも現状。次年度以降も改善に向けて取り組む必要性があると考える。	C

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
校内広報活動の充実	「廊下前通路」「６号館掲示板」「新入生オリエンテーション」を方策として掲げた。廊下前通路は照明もつき，より生徒に見てもらえるようになった。６号館の３年生向けの掲示も内容を工夫できた。オリエンテーションは,「ミニビブリオバトル」を取り入れ内容を刷新した。	B
知的興味へ誘う環境作り	小論文関連書籍の充実は，おおむね達成できたが，来年度もさらに充実を図りたい。日替わりで「本日のおすすめ本」のコーナーを設けることを方策として挙げていたが，実行できなかったので来年度は実現したい。	C

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒募集に当たり，推薦・専願の受験者を増やす。	取組目標に「推薦・専願の受験者数を増やす」と掲げたが，推薦は体育奨学生・体育推薦生・一般推薦を合わせて 131 名で昨年度とほぼ同数であったが，一般の専願受験者が昨年度比―27 名で合計 207 名の受験者となり，目標は達成できなかった。	C
ホームページを利用し，本校の魅力をアピールする。	ホームページがより見やすく情報を得やすいホームページになったことにより，本校の魅力をアピールすることができた。また，学校自己点検のホームページや学校案内についての評価が高い数字になっていることは評価に値する。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
経常費補助金収入の改善及び人件費の適正化	補助金収入増収を図るため，改善策として１学級の生徒数を 40 人以下として経常費補助金の減額要因を最小限にとどめた。また人件費の適正化を図るため，生徒数に対する適正なクラス数及び持ちコマ数を見直し，適正な教員数の配置を行った。	A
経常費補助金（特色教育推進事業）の収	「教学に関する全学的な基本方針」を有効に機能させながら，本校独自の事業計画	A

入確保並びに特色ある教育の充実	を策定し，新規に特色ある教育を実施することにより補助金収入の増収を図った。	

※【Ａ達成できた，Ｂ大体達成できた，Ｃあまり達成できなかった，Ｄ達成できなかった】

平成３１年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」施行に向けての取組は，具体的に教育課程表の作成を行う。「高大接続改革」に向けての取組は，「学力の３要素」を踏まえた教育活動を通し，多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために，「主体的・対話的で深い学び」の視点からなる学習活動と英語の４技能検定，「ｅポートフォリオ」の対策を進める。	2019 年度を目途に教育課程表の案を作成し，2020 年度夏までに策定する。その後，大学本部へ申請，2021 年４月に県へ申請する。「高大接続改革」に向けての取組は，不断の授業改善を通年行う。
ＩＣＴ教育の推進	「Classi」の効果的な活用方法を積み上げながら，機器の充実と教員の技能を高めるための研修を行っていく。	通年
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	評価結果に基づきながら，相互授業参観などを通して，授業力とクラスの教育環境の向上を図る。また，各種研修会への参加を促す。	通年

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	生徒との二者面談等の実施	通年（特に年度の早い時期から）
	保健室などとの連携を図り，早期発見・早期対応に努め，組織（チーム）として問題解決に当たっていく。	通年
	いじめ発見調査アンケートの実施と適切な対応	６月・１１月
	生徒会が中心となった，いじめ防止スローガンやポスターの作成と掲示	１学期～
	各種研修会への教職員の積極的参加	通年
	ネット被害防止スクールガード事業を通したネットパトロールの実施と対応	通年
	授業を含めた学校生活全体で教員が生徒の様子を「観察」することが第一。教室以外でも生徒の言動や行動が気になった場合は慎重かつ積極的にアプローチしていく。	通年
交通安全指導 問題行動の防止	交通安全教室（１学年）の開催	４月
	各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識づけの向上を図る。	通年
	登下校時の通学路巡回指導の実施	通年
	トラブルや問題行動防止のための継続した指導や注意喚起	通年
	生活指導講話の開催	年４回

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
部活動の適正化	部活動の在り方に関する方針を策定するとともに，発展的な改革を進める。	４～５月　方針の策定・決定 ６～７月　生徒数や指導者の実態を踏まえての部活動数の検討と決定
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下，課外活動の活性化に努める。	５月以降　方針を踏まえての活動の見直しと実践

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	①夏期休暇中の全員参加の講習（１～２年，ただし３年は進学希望者全員） ②年末年始休暇中の全員参加の講習（１・２年） ③春期休暇中の全員参加の講習（２・３年） ④医学部附属看護専門学校説明会（２・３年の生徒対象：看護学校教員が説明） ⑤理工学部説明会（２・３年の生徒対象：理工学部教員が説明） ⑥芸術学部説明会（２・３年の生徒対象：芸術学部教員が説明） ⑦国際関係学部説明会（２・３年の生徒対象：国際関係学部教員が説明） ⑧生物資源科学部説明会（２・３年の生徒対象：生物資源科学部教員が説明） ⑨工学部オープンキャンパス無料バスツアー（１～３年の生徒・保護者対象）引率 ⑩日本大学各学部のオープンキャンパスへの参加を指導（全学年） ⑪１年次進路説明会（保護者対象）にて日本大学について説明（本校教員が説明） ⑫２年次進路説明会（生徒・保護者対象）にて日本大学向けの分科会を開催（本校教員が説明） ⑬３年次日本大学付属推薦説明会（生徒対象：本校教員が説明） ⑭３年次日本大学付属推薦説明会（保護者対象：本校教員が説明） ⑮生産工学部高大連携教育（３年） 上記の学部教員による説明会について，これまでは全て別日程で行ったが，日程を調整することにより，効率化を図っていく。また，本校教員による説明を行ってきた学部について，学部から教員をお招きし直	通年

	接説明していただくことを検討していく。	
きめ細かい進路指導の実践	付属推薦入試の最新情報を速やかに生徒や保護者に伝え，日本大学進学希望者の進路目標達成を援助する。進路指導部と担任が連携を密にして生徒の実態に即したきめ細かい進路指導を行う。 スタディサポート（ベネッセ）により生徒の現状分析から面談する優先順位が分かるので，それをもとに面談の計画を立てる。教員向けのスタディサポート分析活用会を実施し，家庭学習の充実に向けた指導のポイントなどを担任が研修を積み，実践していく。 新１年生から探究ナビ（ベネッセ）を導入し，これまで行ってきた進路サポート（ベネッセ）と融合させ，キャリア教育を充実させる。	通年

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の様々な「不適応状態」や「困り感」の早期把握と，それに対する早期対処のシステム化	平成 30 年度に引き続き，学校での生徒の様子を情報収集し，早い段階でチームを組み役割や動きを確認する。 ケースカンファレンスを積極的に行う。	通年
情報収集の効率化	生徒の欠席状況を定期で聴取し，該当者とは面談を実施する。 面談の際に最低でも聴取する共通項目を設定する。	通年

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒，教職員，一人ひとりに届く広報活動	新入生オリエンテーションの工夫	１学期
	図書館前の階段下及び６号館の掲示板の充実	通年
知的興味へ誘う環境作り	小論文指導関連書籍の充実。	通年
	一定期間を決め（読書週間等），日替わり特集本コーナー（「本日のおすすめ本」）の設置	通年

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
入試制度の変更により志願者を増やす。	受験生，保護者にとって魅力的な入試制度を採り入れ，中学校教員対象説明会，学校説明会，中学校・塾訪問を通して周知していく。	通年
ホームページを利用し，本校の魅力をアピールする。	大変見やすくなったホームページで更新を迅速に行い，常に新鮮な情報を伝える。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
経常費補助金収入の	１学級の生徒数を 40 人以下とし，就学環境を改善し，	通年

改善及び人件費の適正化	経常費補助金の減額要因を最小限にとどめ，補助金収入増収の改善を図る。また，人件費の適正化を図るため，生徒数に対する適正なクラス数及び持ちコマ数を見直した適正な教員数を配置する。	
経常費補助金（特色教育推進事業）の収入確保並びに特色ある教育の充実	「教学に関する全学的な基本方針」を有効に機能させながら，本校独自の事業計画を策定し，新規に特色ある教育を実施することにより補助金収入の増収を図る。	通年

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
基礎学力の向上	相互授業参観を通して，授業等の相互点検を図りながら教育力の向上を図った。多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために始業時間を守るように取り組んだ。	B
ＩＣＴ教育の導入準備	１年生と２年生特進コースで「Classi」を導入し，主にアンケート機能やポートフォリオ作成のためのツールとして活用した。今後は，さらに機能の効果的な活用を図る必要がある。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	ゼロベース予算，冗費の節減，学校経営に対する個々の意識改革の徹底を全教職員へ周知し，経費節減等支出削減対策につなげ，財政状況が改善するように取り組んだ。	A

※【Ａ達成できた，Ｂ大体達成できた，Ｃあまり達成できなかった，Ｄ達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新教育課程への取組	各教科から出た教育課程表案を基に，検討策定していく。その際，「総合的な探究の時間」と「理数科」の持ち方について研究を重ねる。	2019 年度を目途に教育課程表の案を作成し，2020 年度夏までに策定する。その後，大学本部へ申請，2021 年４月に県へ申請する。「総合的な探究の時間」の持ち方については，2019 年度入学生からの移行期に合わせながら年次進行で整えていく。「理数科」の持ち方については，新課程実施に向けてと実施後も継続して研究していく。
ＩＣＴ教育の推進	「Classi」の効果的な活用方法を積み上げながら，機器の充実と教員の技能を高めるための研修を行っていく。	他校の事例検討，調査研究，体験・研修を重ね，生徒へのタブレット端末導入を検討していく。

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	ゼロベース予算，冗費の節減，教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により，経費節減等支出削減対策につなぎ，財政状況が改善するよう継続して取り組む。	継続して取り組む。